

# 宿縁

十二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号  
浄土真宗  
本願寺派  
**中原寺**

TEL 0477-372102  
FAX 0477-372102

安全は得られても

安心は人がもたらすもの



NHK総合テレビの「鶴瓶の家族に乾杯！」は心ほのぼのとなる番組の一つです。ぶっつけ本番の旅なので、その地その場での人との出会いに心がなごみます。

先週は滋賀県米原市からで、浄土真宗の根付いた土地らしい、家の中の立派な金仏壇や落語会を催したというお寺を訪ね、その家族を紹介するなかで幼き子供の名前「蓮昭」は蓮如上人の一字からいただいたと説明する母親の姿に微笑ましいものを感じました。近年日本の犯罪件数は減少していますが、

殺人事件のおよそ半分は家族間殺人で、その増加は家族の形の変化とギャップからきているといわれています。家族崩壊が殺人という行動につながっていることの事実をどう受けとめたいのでしょうか。

京都大学の総長である山際寿一さんは通称ゴリラ先生と呼ばれて、霊長類学者であり人類学者として有名です。

先生は「人間家族の由来と未来」について話されていますがとても勉強になります。

家族とは、人間社会だけの普遍的な現象です。他の動物も形としては人間の家族に似ています。例えば、鳥は子どもをおなかの中で卵として育てますが、卵は数時間から数日で体の外に出てきます。その卵を温めるのは、別に母親でなくても、父親でもいいし、人間が温めても孵化します。でも人間は哺乳類だから、おなかの中で何か月も子どもを胎児として育て、生まれてからも、お乳をやり続けなければなりません。

また、オオカミやキツネは夫婦仲睦まじく暮らしますが、肉食動物です。肉食動物は胃の中に食べ物を長時間保存していられるので、捕まえた獲物の肉をいったん飲み込んで、それを安全な場所に隠している子どもたちに吐き出して与えることができます。

しかも、毎日食べる必要がありません。さて人間の特徴は、単体ではなく複数の

家族が集まって共同体を作るところにあります。これがないと人間の家族ではないのです。共同体を中心に、食物を共同で生産し、分け合って食べる。子育ても共同です。家族単体ではできないから、共同で行う。

このように人間の家族という形態が生まれ、これを維持してきたのは高い共感力(人々の心を感じ、読むという能力)だそうです。

人間の祖先はゴリラやチンパンジーと同じような特徴を持って出発しましたが、その途中のどこかで、家族と共同体というものが出てきました。ゴリラやチンパンジーは、アフリカしか住んでいません。そこは熱帯雨林

で、緑が一年中豊かで、フルーツなどおいしい食べ物がある場所です。人間の祖先も同じような場所で暮らしていたのですが、ある時から世界中に分布を広げるようになりました。その違いが、子どもの成長と子育てに表れています。そこに家族の秘密が隠されています。

人間の進化史を見ると、まず、熱帯雨林から出て、直立二足歩行を始めたことが画期的です。これは食物を分配し、安全な場所で見ながら分け合って食べることに繋がりました。人間は共同の子育てを通じて、他者を

いたわったり助けたりする能力を高めました。もうひとつ、言葉のわからない赤ちゃんに対して、優しい音楽的な声を出しながら育児ができるようになったことです。優しい声を聞くことで、たとえ赤ちゃんはお母さんの腕に抱かれていなくても、あたかも抱かれているかのような安心感を覚える。おそらく人間が言葉が発するずっと以前から、音楽でコミュニケーションを取る方法があつて、そ

れが共同保育の中で出てきたようです。

今、家族が崩れ始めたのは、いろいろ原因があるでしょう。少子高齢化で共同の子育てが物理的に困難となったこと、ファストフードや中食ができて、自分の好きなものを自分勝手に食べることができるようになり、みんなで一緒に食べるという社会的な空間がなくなったこともあります。しかし一番大きいのは、コミュニケーションが変わったこと。スマホやインターネットなどの電子空間

でつきあうようになって、家族が見えなくなり、見えるのは仮想的な集団だけになってしまつと、人間社会は大きく変わります。

現在の私たちは、こうした状況下で不安の時代に生きていけると言えます。今は安全・安心

の時代といわれていますが、安全は科学技術でなんとかなりますが、いくら安全な環境で暮らしていても、安心は人がもたらすものだから、人との信頼関係が失われれば不安は増幅します。

そこでゴリラ先生は、「まだ文明を経験しなかつた時代から人間が持つていた直観力や共感力に基づく思考を取り戻すこと」を提案しています。人間はこの二つの能力によつて、予想外の事態を乗り切ってきたので、そのためには、自然と接することや、過去の経験では判断できない事態をもつと経験することによつて、直観力や共感力を鍛える必要があると申しています。

宗教離れ、お寺離れの世情を受けとめつつ、毎月お寺を会場に親子が集う「子育てサロン」や、仏法を共有し、共感力と信頼関係を作り出す法座活動の重要性をあらためて再認識いたします。

再認識いたします。

【寄稿】

「ご晨朝に参って」―酒井昭枝―

平成26年1月に、婦人会に入らせていただき現在に至っております。

6時半から始まるお朝事には4年程前からでしょうか、お参りに伺っています。

何にも解からず参らせていただいた時には、「正信念仏偈」ははるか昔に聞いたことがあるお経で、前坊様に少しずつ教えていただきながらでしたが、なぜか涙がポロポロ出てしまい読むことができないくらいでした。

お寺では、願い事を手を合わせながらいいいと思っていました、それははしくなくていいのだということが解ってきました。お朝事には、朝早く目が覚めるものですからお寺に行こう！と思ひ、風雨にかかわらず、用事がない限り参っているところです。お浄土とは？阿弥陀様とはどこにいらつしやるのか？質問だらけに住職様は懸命に話してくださいるのです。読経後の法話、世間の事、自分自身の事、いろいろなお話を解りやすく聞いたり話したりしてくださいます。

本願他力の教えを聞かせていただけば、この世の重荷が少しづつ軽くなると言われ、阿弥陀様が私の人生の伴走者となってくださることのうれしさに手を合わせております。縁がありまして中原寺様に導かれ現在があるのだと、これからも出来るだけの事はして、毎日楽しく過ごせれば良いのかなあと思っております。仏教は奥が深く、どんなに教えていただいても解かるうはずがないのかも知れませんが、命のある限り、身体の動く限り、少しずつでも勉強させていただきたいと思ひます。

【寺灯雑記】

○当寺より13名が帰敬式を受式

11/15

今年も築地本願寺の報恩講法要中に行われた帰敬式で当寺の左記13名の方々が、本願寺ご門主より「おかみそり」の儀式を受けて法名をいただきました。

- \*青柳武子さん \*朝野一邦さん
  - \*梅津孝子さん \*金井勝二さん
  - \*金井勝代さん \*田村安男さん
  - \*田村理子さん \*中垣英男さん
  - \*松居久子さん \*宮本修二さん
  - \*宮本亮平さん \*村田ヒデ子さん
  - \*山本由美子さん
- おめでとうございます。

尚、当日受式者140名を代表して当寺門徒宮本亮平さんが仏前において帰敬文(仏教徒としての決意文)を読み上げました。

このたびの法名をいただいた仏縁を大切に、いよいよ仏法聴聞に励み充実した人生生活を歩まれますよう念じます。

○最も大切な仏事「報恩講」を円成

11/20~21

一年でもっとも大切とされる行事「報恩講法要」が例年通り2日間にわたり勤められました。

20日の夕方5時に、山門からの参道と聞法会館の入り口に和紙に描かれたたくさんの絵灯籠に火が灯される中を初夜法要が始まりました。会館ホールのスクリーンで親鸞聖人御絵伝を觀賞した後、参詣者は報恩講行事のお荘厳に設えられた本堂に移って「初夜礼讃偈」(すべての人々が西方極楽

世界に生まれんと願生する阿弥陀仏の救いを讃える)を唱和しました。そして堂内を暗くした中、ぼんぼりの灯りの下で親鸞聖人ご往生の模様が記された部分の「御伝鈔」が前住職により拝読されました。

二日目、6時半から「ご晨朝」のお参り、11時から午後1時からの日中、ご満座の法要はご住職を導師に多くの出勤僧侶とともに厳かに勤められました。尚、二日間を通しての法話は大阪市浄行寺住職義本弘導師が「念仏の息」という念仏者の尊い人生についてねんごろにお話してくださいました。

両日のお齋(精進の食事)作りや接待、絵灯籠の設置や片付け等には婦人会・壮年会の方々にお手伝いをいただきました。

○御仏飯米を寄進

- \*福島道宏様
- \*錦織春海様
- \*橋口俊信様

○門信徒会役員会を開く

12/1

今年度最後の第5回定例門信徒会役員会が18名が出席して開かれました。

主には10月に開催された文化講演会の決算報告、来年度の諸行事のスケジュール等について協議されました。

○賑やかに年末懇親会を楽しむ

12/8

恒例の壮年会、婦人会合同の年末懇親会は昨年と同じ松戸の「一幸」を会場に30名が参加して「とらぶぐコース」を堪能しながら

楽しく歓談し、新年へ向けての身心をリフレッシュいたしました。

【法要・法座・行事の案内】

☆元旦修正会

\*一月一日(祝日) 午前八時より

正信偈、年頭法話(住職)、ご流盃の儀

京風お雑煮の接待

新しい年をお念仏とともに生きる決意を新たにし、仏祖、宗祖にごあいさつをする法要です。ご家族共々初参りください。

○子育てサロン(パンダっ子)

\*十二月十日(月) 十一時~二時

○和讃に学ぶ(聖徳太子奉讃)

\*十二月二十二日(土) 二時

○お寺の小さなコンサート

\*十二月二十四日(休日) 十一時から

出演：ここのりのえんのみなさん

○婦人会総会・新年会

\*一月十二日(土) 十一時

○常例法座

\*一月二十日(日) 一時

布教使：柏倉学法師

○いのちの居場所を考える会

\*一月二十二日(火) 十時

○和讃に学ぶ(愚禿悲嘆述懐和讃)

\*一月二十六日(土) 二時

○壮年会総会・新年会

\*一月二十七日(日) 二時半

【十二月の掲示板のことば】

朝、目覚めるごとに「新しき人」であれ